

地域おこし協力隊通信

vol.5

2月1日に幌延町に着任したばかりなので、まずは幌延町を知るために町内を探索しました。最初に探索したトナカイ観光牧場では元気なトナカイたちが追いかけてくわしていたり、休憩していたりと微笑ましい姿を見せてくれました。最近では、心象館・郷土資料館・幌延ビジターセンター・ゆめ地創館・秘境駅などを見学し、日々幌延町について勉強をしています。



幌延町に着任して一番感動したのは、下沼駅付近にある湧水です。札幌だと80km先の京極町まで行かないと湧水は飲めないのですが、幌延町は下沼駅付近に下沼湧水『権左衛門』があり、いつでも湧水を飲むことができるのでミネラルウォーターは買わなくなりました。下沼湧水の硬度は37.4mg/lなので非常に柔らかい軟水になります。コーヒーや紅茶を入れると豆・茶葉の成分が溶け込みやすくコクも出るので、水道水で入れるよりも一段と美味しくなります。このような幌延町の魅力をどんどん発信していきたいと思います。

(地域おこし協力隊 若月 秀晃)

丘のまち美瑛には、マイルドセブンの丘、セブンスターの木、ケンとメリーの木など有名な観光名所がたくさんあります。そんな素晴らしい自然の景観の一つ、哲学の木が所有者によって伐り倒されたというニュースが流れました。これは押し寄せる観光客の行動が地元の農家に大きなストレスを与え、強い怒りを買ってしまった結果なのです。哲学の木が立っているのは、農家の畑の中。およそ100メートル離れた道路から記念撮影ができますが、もっと近づきたいと無断で麦畑やジャガイモ畑に入り込んで写真を撮る、勝手にトラクターに乗り込む、ゴミを捨てるなどのマナー違反が頻発していたそうです。



「北進地区の一本松」

幌延のなかでも春になると、牧草地の中まで車で入り込みタケノコを採っていく人がみられると聞きました。酪農を知らない人にはただの草原に見えるのかもしれませんが、酪農家さんが丹精込めて育てている大切な牧草です。非常識な行為だと思います。

観光振興を行っていくとき、とかく集客、経済効果に注目がいきがちです。しかし、地元住民の生活、観光客の安全、ごみ問題、環境保全等いろいろと解決すべき事柄があります。美瑛町やニセコでは独自の観光マナー・ルールの作成、観光客安全対策などをすでに行っています。幌延町で観光振興を進めていくとき、先行しているまちの事例を学び、同じような問題が生じないように対策を施していきたいと考えています。

右の写真は幌延町で見つけた雪原のなかにたたずむ木。騒々しくならない程度に皆さんに見てほしい風景でした。

(地域おこし協力隊 丸田 耕作)

地域おこし協力隊への意見・メッセージを募集いたします

今後の協力隊に取り組んでもらいたいこと等の意見・メッセージを下記問い合わせ先までお寄せください。

問い合わせ先

幌延町地域おこし協力隊 電話 5-1113

メール kyoryokutai@town.horonobe.hokkaido.jp